

報 告 書

令和元年 8 月

鳥取砂丘西側ワーキンググループ

1. はじめに

本年1月31日に開催された鳥取砂丘未来会議総会で鳥取砂丘全体を議論する中で、多くの委員から砂丘西側の利活用を進めるべきとの意見がありました。

これを受け、2月21日に砂丘西側の地権者や活動団体、施設管理者等17名をメンバーとするワーキンググループが設置され、都合4回会議を開催し、協議内容を砂丘西側の利活用に絞り議論を重ねてきました。

このたび、ワーキンググループでの議論がまとまりましたので報告します。

2. 第1回会議（2月21日）の概要

会議の冒頭で座長選出が行われ、事務局提案で私の就任が承認されました。

会議では、参加メンバーが自己紹介とともに今後の砂丘西側の望ましい将来像と課題を紹介し、情報共有しました。

また、事務局からは、砂丘西側に関係のある各種の構想が紹介され、このうち策定後15年を経過した鳥取砂丘西側整備構想について、改訂の必要性が説明されました。

メンバー間で情報共有された今後の砂丘西側の望ましい将来像と課題は次のとおりです。なお、この要旨は3月26日開催の鳥取砂丘未来会議総会で報告済みです。

今後の砂丘西側の望ましい将来像と課題（要旨）

1. 鳥取砂丘西側は、静かな砂丘環境や文化景観の広がりを活かし、「滞在」と「遊び」をキーワードにしたエリア作りが望ましい。
2. 広域観光の観点から見て砂丘に欲しい機能は、アッパーミドルクラスの宿泊施設や先鋭的アクティビティ等が望ましい。
3. 砂丘の均衡ある発展を進める上で、砂丘域内の東西をつなぐ移動手段が必要である。
4. 西側整備の検討と並行して砂丘西側の情報発信を行う必要がある。
5. 民地や市遊休地の利活用やキャンプ場とサイクリングターミナルの今後の運営に関して、ビジネススペースでの新たな方針と民間活力を導入した事業スキームを模索すべきである。

3. 第2回会議（5月27日）の概要

若者や女性の視点を補うことを目的に、3名の新メンバーを迎えて開催しました。会議では、まず4月8日～4月10日と5月22日～5月23日の延べ5日間に11の事業者を訪問して行ったヒアリングの結果が報告され、第1回会議に続き、さらに議論を深めました。

また、砂丘西側が抱える課題解決を図るため、環境省が今年度に創設した国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業に応募申請することのメリットなどが話し合われました。

(1) ヒアリング実施日と対象者

4月8日（月） 砂丘会館、麒麟のまち観光局

- 4月9日（火） 鳥取大学乾燥地研究センター、護国神社、鳥取砂丘こどもの国、
鳥取砂丘アクティビティ協会
- 4月10日（水） 鳥取ゴルフ倶楽部
- 5月22日（水） 浜坂財産管理組合
- 5月23日（木） 鳥取県子育て応援課、自然公園財団、鳥取市生涯学習・スポーツ課

（2）ヒアリングの質問項目

- ① 砂丘西側の個別の施設に対するイメージや評価。
- ② 砂丘西側でしか担えないこと、実現できないこと。
- ③ 事業主体として砂丘西側の活動や事業に参画できる場合の内容。あるいは、自主的にご提案いただける新しい事業形態。
- ④ 自社（自施設）のゲストにメリットがありサービスが向上すると考えられるアクセス手段。
- ⑤ 5年後の砂丘西側をイメージする中で、そこで運営される様々な活動等に期待すること。

（3）ヒアリングの結果（総括）

1. 砂丘西側の静かで自然感の強い環境と価値ある景観の双方を大切にすべき。
2. 砂丘西側では、収益性を前提とした事業の導入を行なうべき。
3. 学びと遊びを融合した取り組みを、いろいろな事業者が協力して西側で展開したら良い。
4. 単価の高い滞在型のターゲットを想定し、食事を含めた施設整備とサービスを構想するのが良い。
5. 既存施設の地元のファン、固定ゲスト層を今後も大切にしなければならない。
6. 砂丘の東西の両地区を結ぶなんらかの2次交通手段が整備されるべき。
7. 浜坂の住宅地の居住環境を阻害しないことが、砂丘西側の開発構想の前提である。
8. 既存施設間・事業者間のコミュニケーション機会を作った方が良い。
9. 鳥取空港、賀露港、砂丘を結ぶ公共交通手段や道路アクセスが必要である。
10. 恒久施設だけでなく、仮設的な設備やシェルターの利用、運用も想定すべき。
11. 既存事業者ごとの単独の事業展開や努力だけでなく、外部の力を借りた方が多いことが多い。
12. 国立公園の第二種特別地域においてはイベントなどの利用申請が円滑に行えるしくみに改善できると良い。
13. 砂丘西側全体で、駐車場の統合的な整備、管理、運用が求められる。
14. 西側ビジターセンターに対しては、具体的なイメージよりも漠然とした期待感や不安感が入り混じっている。

(4) 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業

2020年における訪日外国人旅行者数4000万人及び国立公園来訪外国人利用者数1000万人の実現に向けて、旅行者が出国時に負担する国際観光旅客税を財源に、国立公園利用拠点の滞在環境を上質化するため、官民同時一体で事業を推進する廃屋撤去、インバウンド対応機能強化、文化的まちなみ改善などの取り組みに国から1/2の補助が受けられる。

応募申請するには、行政や民間事業者等を構成メンバーとする協議会で、最長5年間で事業期間とする利用拠点計画を策定する必要がある。

4. 第3回会議（6月28日）の概要

6月18日に深澤義彦鳥取市長から西側エリアにある旧砂丘荘及び旧青年の家の跡地への高級リゾートホテルの誘致計画が公表されたことから、会議の冒頭で鳥取市観光・ジオパーク課が報告を行いました。

また、会議では鳥取砂丘西側整備構想の改訂において、今後、西側が目指すべき方向性とゾーニングについて議論が進みました。その案は次のとおりです。

(1) 砂丘西側が目指す方向性案

誰もが、学び、遊び、泊りを通して鳥取砂丘を深く知ることができる滞在型観光エリアへの躍進

- ・優れた景観や静かで落ち着いた環境をこわさない配慮ある行動
- ・自然景観の質の向上
- ・多様な来訪者に対応できる基盤整備とプログラムの開発
- ・鳥取砂丘の他のエリアとの連携による相互補完と相乗効果の促進
- ・滞在型観光が生む高い経済波及効果を意識した広域観光のけん引

(2) 砂丘西側のゾーニング案 ※6ページ参照

乾燥地研究センターから鳥取県休憩舎までをまとめる「学びゾーン」
こどもの国やサイクリングターミナルなどをまとめる「遊びゾーン」
市の誘致ホテルと国民宿舎、周辺施設などをまとめる「泊り（見晴らし）ゾーン」

5. 第4回会議（7月22日）の概要

過去3回の会議のまとめと本報告書の検討が行われました。メンバーからは、自らが提案した事業に対する取捨選択の方法や今後の検討過程に多くの意見が述べられました。

事務局からは、今後予定されるホテル誘致に関するプロポーザルや鳥取砂丘西側整備構想改訂のパブリックコメントなどで、事業者や市民からのさらなる事業提案や意見の提出が予想されることから、西側ワーキンググループを継続設置し、事業の選別や検討を進めたい旨の考え方が示され、了承されました。

6. 全体を通して

協議内容を砂丘西側の利活用に絞り議論を重ねてきましたが、西側を議論するためには、砂丘全体の議論と同時並行して行う必要が度々ありました。

このことから、鳥取砂丘西側整備構想の改訂後は、鳥取砂丘再生会議が平成22年11月に策定した鳥取砂丘ランドデザインについても、すみやかに改訂に取り組む必要があります。

全体を通して申し上げたいのは次の3点です。

1. 今後のランドデザイン改訂を視野に、西側ワーキンググループを継続設置し活用すること。鳥取砂丘西側整備構想の改訂時には、意見を求めること。
2. 砂丘全体の整備に、官民で活用可能な国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業を活用すること。新たなワーキンググループを立ち上げ、具体の検討を進めること。
3. 砂丘全体の整備は、ハード面だけでなく、鳥取砂丘新発見伝事業の見直しなど、ソフト事業の充実にも取り組むこと。

7. おわりに

まず、鳥取砂丘未来会議西側ワーキンググループのメンバーに感謝申し上げます。

合計4回の会議では、限られた時間の中でメンバー全員がそれぞれの知見をフル活用し、大所高所から様々な議論を展開していただきました。

私自身メンバーの意見や提案を知るにつけ、鳥取砂丘の新たな魅力に気づかされる機会が数多くあり、毎回新鮮な気持ちで会議に臨むことが出来ました。

今後においては「西側ビジターセンターの整備」や「宿泊機能の充実」あるいは今回ワーキングメンバーから提案のあった計画の実現を通し、鳥取砂丘西側のみならず鳥取砂丘全体ひいては鳥取県東部圏域がますます発展することを期待してやみません。

最後に、本ワーキンググループの事務局を担っていただいた鳥取市、鳥取県ならびに環境省の関係者の皆様へ謝意を申し上げます。

以上、次の資料を添え、当ワーキンググループの報告とします。

1. ヒアリング結果報告
2. 目指す方向性検討資料
3. 事業提案書
4. 新ゾーニング案検討資料

令和元年8月29日

鳥取砂丘未来会議会長 松原雄平 様

西側ワーキンググループ座長 林 浩志

鳥取砂丘未来会議西側ワーキンググループ名簿

令和元年8月現在

区分	団体名	役職	氏名
活動 団体	鳥取大砂丘観光協会	役員	松永 泉
	(一財) 自然公園財団鳥取支部	所長	堀田 利明
	鳥取砂丘アクティビティ協会	会長	片岡 義夫
	山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター管理運営協議会	館長	漆原 利明
広域観 光団体	(一社) 鳥取市観光コンベンション協会	会長	林 由紀子
	(一社) 麒麟のまち観光局	事務局長	石塚 康裕
広域経 済団体	鳥取商工会議所	事務局長	林 浩志
	鳥取県東部商工会産業支援センター	所長	岩本 敬二
地権者	浜坂財産管理組合	組合長	田中 俊彦
学識者	鳥取大学 (鳥取砂丘調査研究会会長)	教授	永松 大
行政	環境省近畿地方環境事務所	所長	河本 晃利
未来会 議委員 以外	鳥取大学乾燥地研究センター	センター長	山中 典和
	サイクリングターミナル砂丘の家(市教委生涯学習スポーツ課)	次長	神谷 康弘
	鳥取砂丘こどもの国	園長	堀場 明子
	(公社) 鳥取県観光連盟	誘致事業課長	岡崎 充男
	(一社) 日本旅行業協会中四国支部 (JTB 他)	支店長	富岡 哲也
	NPO法人とっとり観光ガイドセンター	理事長	山根 奈津子
	砂のルネッサンス実行委員会	委員長	田淵 裕章
	Tottori Mama's	代表	中井 みずほ
	砂丘 YOGA	代表	石谷 依利子
事務局	鳥取県観光交流局観光戦略課	課長	岩下 久展
	鳥取県生活環境部緑豊かな自然課	課長	池内 富久
	鳥取市教育委員会事務局文化財課	課長	富田 恵子
	鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課(柳茶屋キャンプ場)	課長	山根 康子郎

鳥取砂丘西側新ゾーニング案

※黒色のテキストは現在の利用状況、赤色のテキストはワーキンググループの提案事業

「学び」「遊び」「泊り」の3つのゾーン

